



遠藤 恵理子
ENDO Eriko

土間と下屋の家 ～土間がつなく暮らしと農の風景～

両親・夫婦・こどもの3世代の家族が、お互いに助け合い、寄り添いながら、安心して楽しく暮らせる家。家族がいつもお互いを感じられるように、家族が「共に過ごす空間」、緩やかにつながる「それぞれの空間」をつくりました。それぞれの生活を尊重し合いながら、楽しい時間を共有し、共に支え合いながら、心地よい距離感でつながり合う家を目指しました。

【空間のつながりが家族のつながりをつくる】

<ヨコの空間のつながり>



土間で生活空間をつなぎ、家族をつなく。
土間が外と中の境界を曖昧にする

<タテの空間のつながり>



緩やかにつながる「それぞれの空間」で、お互いの気配を感じられる



配置図兼 1 階平面図



2階平面図(1/250)

所在地:山梨県笛吹市石和町
敷地面積:430.82㎡
建築面積:430.82㎡



A-A 断面図(1/250)



B-B 断面図(1/250)



■土間が空間をつなぎ、家族をつなく

「居住空間」と半外空間の「農作業場」の2つの空間を、外との親和性の高い土間でつなぎます。

空間に連続性を持たせることで、家族の距離を近づけ、家族同士の緩やかな繋がりをつくります。

仕事の合間に声を掛けられる距離感で、お互いの様子が感じられ、家事協力・農作業協力もしやすく、暮らしの利便性も上がります。



■階段室を中心とした様々な読書スペース

階段室を中心に、共通の趣味である読書を通じた共有空間を設けます。壁いっぱいの本棚に、様々な読書スペース。家族が自然と集まり、それぞれがお気に入りの本を読みながら、お互いの気配を感じられる程よい距離感で、家族が緩やかにつながります。

階段室を中心に設けることで、どちらの世帯からも子どもたちを見守れる配置にします。

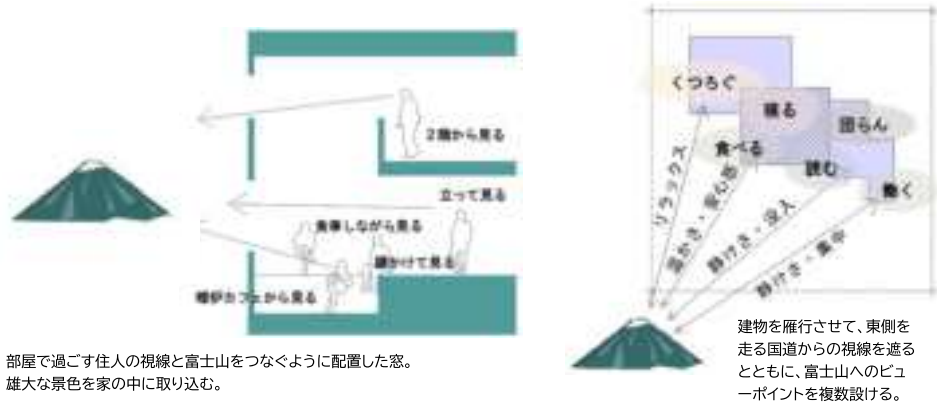


大河内 良枝
OKOUCHI Yoshie

富士を臨む家

富士山を南西に望むことのできる広い土地を生かして、どの部屋にいても美しい富士山の絶景を眺めることができる家を設計した。建物を雁行させ、視線と富士山をつなぐように窓を設けることで、どんなときにも富士山を眺めることができ、少しずつ富士山が生活の一部になっていく。

都会の生活に疲れを感じ、自然を求めて移住を決心したご家族のための住宅。
無意識にストレスを抱え込んでいる現状から、自然との日々のふれあいの中で心の健康を保ち、「生活の質」の向上を目指していく。



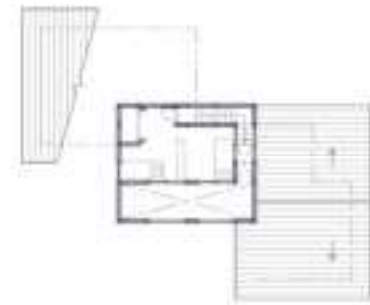
部屋で過ごす住人の視線と富士山をつなぐように配置した窓。
雄大な景色を家の中に取り込む。



配置図兼 1 階平面図 (1/250)



2 階平面図 (1/250)



（建坪数）

敷地面積	800.20㎡
建築面積	100.20㎡
1F 延床面積	24.44㎡
2F 延床面積	19.87㎡
総延床面積	104.31㎡
建築率	12.51%
容積率	22.67%



西断面図 (1/250)



断面図 (1/250)



■重心を抑えた外観
周辺住民や来訪者が目にする富士山の眺望を妨げないように、2階部分を登梁構造として階高を抑えつつ、ダウンフロアと吹き抜けの組み合わせにより、伸びやかな空間とした。



■レベルを変えたくつろぎのスペース
家の中心に位置するダウンフロアはリビングとの連続性を保ちながら空間を区分する。



■家の中心にあるベチカ
ダイニングキッチンと暖炉カフェをつなぐ場所に位置するベチカ。寒さの厳しい忍野の冬を快適に過ごしてもらうため、ロシア式の暖炉を採用。レンガ造りで見た目も暖かく、自然と家族が集まる。



岡村 悠真

OKAMURA Yuma

眺望の家

甲府盆地を南西に臨む丘陵地に建つ住宅である。周辺には果樹園が広がり、開放感あふれる環境で四季の移り変わりを味わえることができる暮らしを目指した。オープンフロアによる家族とのつながり、吹抜けリビングによる空間のつながり、開口部やデッキ・縁側による外とのつながりを感じさせる家。風土に根差した暮らしの風景は、リラックスできる心の拠り所となる。



開口・デッキ・縁側からの眺望



吹抜けリビングからの眺望



オープンフロアからの眺望



配置図兼1階平面図(1/270)



2階平面図(1/270)



断面図(1/270)

【家族構成】
夫:35歳
妻:35歳
子ども:7歳, 9歳
ダックスフント

【敷地・建築】
甲州市塩山牛奥
敷地面積:437.2㎡
1階床面積:83.6㎡
2階床面積:58.0㎡
延べ床面積:141.6㎡



■切妻屋根と寄棟の下屋により成る安定感のある外観



■リビング、ダイニング、キッチンを一体化
家族が自然に集まり、コミュニケーションが生まれる。解放感のある対面式キッチンからは、調理をしながら家族の一員である犬が動き回る様子や家族との対話を楽しむことができる。



■室内バルコニーとなる格子床
上下階の眺めに視覚的な変化をつくとともに、緩やかに気配を感じられるように配慮した。



坂上 清美
SAKANOUÉ Kiyomi

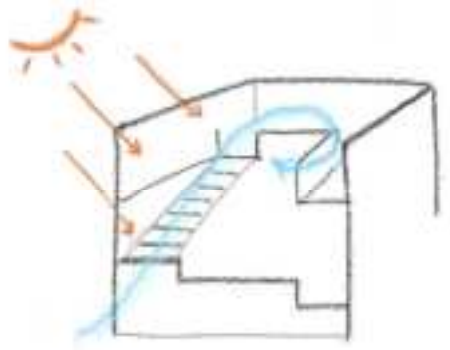
大きな屋根の家

笛吹川に沿った緩やかな盆地のなかの、家族が安心して穏やかに過ごせる家。屋根を一般的な切妻の大屋根にすることで鳥の翼で包まれたような安定感や安心感が生まれる。

家の中心に家族が自然と集まりたくなる大きな吹抜と窓を設けた。敷地の南側に広がるデッキでゆったりと流れる時間を楽しむ。



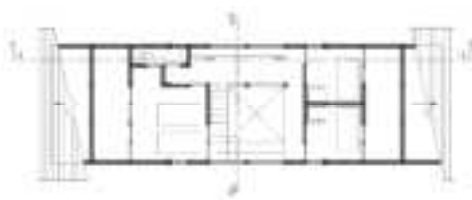
翼で優しく包まれるような安心できる居場所



南面する大きな窓から光と風を取り入れる。



配置図兼 1 階平面図(1/250)



2 階平面図(1/250)

プライベートの時間を大切にしながら、家族とともに穏やかな気持ちで日々を過ごすというのが施主の要望であった。そこで、おおらかに空間を包み込むような切妻の大屋根にしようと考えた。アウトドアリビングとしても使用できる大きなデッキを設けて、屋根とデッキを連続的に繋がるようにした。

【家族構成】
夫:38 歳
妻:36 歳
息子:11 歳
娘:7 歳

【敷地・建築】
笛吹市御坂町成田
敷地面積:399.6 m²
1 階床面積:99.37 m²
2 階床面積:79.49 m²
延べ床面積:196.24 m²



A-A 断面図(1/250)



B-B 断面図(1/250)



屋根からデッキに繋がるラインは、鳥の翼を大きく広げて家を優しく包み込む形



ダイニングから繋がるように小上がりの 4.5 畳の畳を敷き、小上がりの南側から始まる階段の踏みずらを広くしベンチのようにもできる。4 段目からは肩持ち支持階段とし、階段の下に壁にホームシアターが映し出される。2階上がると多目的スペースを通りそれぞれ居室に分かれる様になっている。



大屋根に包まれた家の中心を吹き抜けとし、南面には大窓を設ける。高い壁に囲まれカーテンなしで過ごせる。そこには自然光を受け風が流れる。心地の良い空間になる。

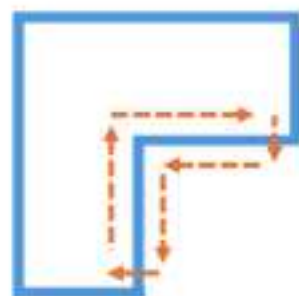


中込 篤子
NAKAGOMI Masako

転回する家

車イスユーザーである妻の行動を軸に家族3人がそれぞれの生活と家族との時間のバランスを考えた段差レス住宅。
妻の安全な行動は家族の安心や息子の成長につながる。生活時間の短縮を考慮した広さや動線で、日常生活と家族の時間の両方で単独と共同のメリハリをつける。子どもの成長に応じて、部屋の用途をかえながら家族3人の生活に寄り添う家。

限られた敷地のなかで、効率的な動線を配置するために、建物の内外をシンプルに動線をつなぐ。



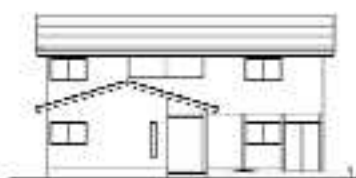
配置図 1階平面図 (1/250)



2階平面図 (1/250)

【家族構成】
夫: 38歳 教師
妻: 36歳 デザイナー
子ども: 14歳 中学生

【敷地・建坪】
中京区昭和区和歌山地区
敷地面積: 235.4 m²
1階床面積: 106 m²
2階床面積: 91.1 m²
延べ床面積: 197.1 m²
建蔽率: 52.3%
容積率: 77.8%



南立面図 (1/250)



東立面図 (1/250)



中庭に面してピロティ的な屋根付き通路を設けることで、雨の日でも傘を差さずに車から降りて、玄関までアクセスすることができる。



車椅子を利用する妻は、日常生活動作に時間を要することが想定できる。家族それぞれが異なるペースで身支度など動作してもストレスを感じないように、動線を分ける。

特に浴室・トイレ空間については、アクセス扉を2箇所設けて、着替えなどの途中でも他の人が利用できるように配置とした。



1階の階段に昇降機を設置して、車椅子でも2階に行けるようにした。車椅子だからといって行動を制限されない。

2階のベランダに行き、外の風に当たりながら読書やお茶をしてもいい。老後2階が遠のくこともない。将来子どもが独立後は部屋を交換してもいい。



中村 信太郎
NAKAMURA Shintaro

カフェのある住まい

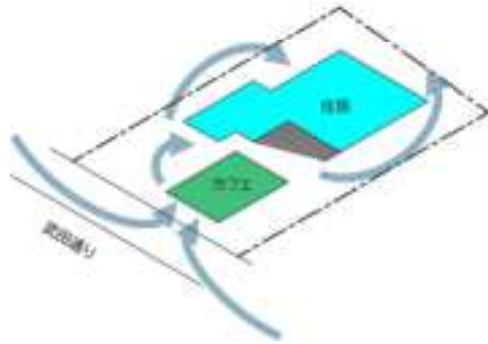
施主は愛犬との暮らしや老後のことを考え小さなカフェをオープンする予定である。武田神社の南に位置し周囲は住宅や中学校、大学などがあり人通りも少なくない。歩道からはカフェ店内が覗けるよう大きなガラス張りの玄関とし、周囲にはコーヒーの香りが漂うだろう。

「ふらっと立ち寄れる小さなカフェ」

本設計では施主夫婦と武田通りを歩く人の流れをデザインすることで、カフェの経営や夫婦の暮らしが豊かになることを願い計画した。

武田通りに面してカフェスペースを設けつつ、住居スペースとの間に中庭を設けて、パブリック空間とプライベート空間を緩やかに接続させた。

散歩ついでにふと立ち寄ってみたいくなる、住まい手のセンスが見え隠れする距離を取りつつ、地域の方々が自然と集まる居場所づくりを目指した。

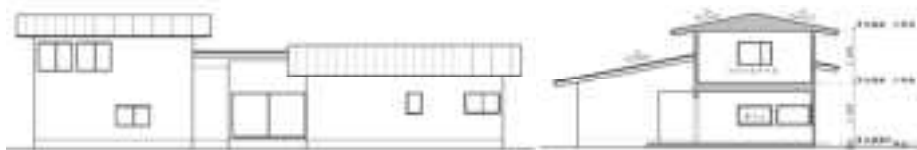


【家族構成】
50代夫婦の2人家族
小型犬2匹とともに暮らす

【敷地・建築】
山梨県甲府市大手
敷地面積: 432.0 m²
1階床面積: 145.7 m²
2階床面積: 39.8 m²
建築面積: 145.7 m²
延べ床面積: 185.5 m²
建蔽率: 29.6%
容積率: 42.9%



配置図兼1階平面図(1/250)



北立面図(1/250)

南立面図(1/250)



■武田通りに面したカフェ入口。
2階はフリースペースとして、読書会やピラティスなど、地域の方々が集まる。

■表通りに面して2階建てのカフェ中庭を挟んで敷地奥に平屋の住居を配置した。敷地の余白や建物のスキマから、オーナーの美意識が見え隠れする。



■2寸勾配の緩やかに連なる屋根奥行きのある軒出(1200mm)とともに、落ち着いた街並みを形成する。



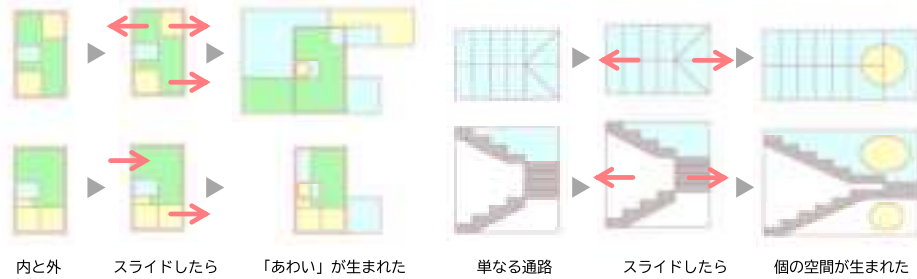
■中庭
店舗側デッキから中庭を覗くと、南方向に眺めが広がる。カフェの窓から庭を望みながら、ほっと一息つける。



中村 三千穂
NAKAMURA Michiho

あわいの家

近隣への迷惑に気にすることなくドラム演奏を思いっきり楽しめる。のんびりできて、家族の心の拠り所となる家。人と人、人と自然が程良くつながる空間を意識した。空間をスライドさせたら人と場所を優しく繋げる「あわい」が生まれた。互いの影響が交じり合う空間が家族のきずなを深め、山梨の厳しい自然環境から守るような建築を目指した。



■緩やかな登り坂の途中、甲府市内から帰宅時に見える外観



■内と外をバルコニーで緩やかにつなぐ

1階は2階バルコニーの床が屋根となり、2階はバルコニーの開口部側半分に屋根をかけ中間領域を設けた。

2階から1階にかけて空間をスライドさせることにより、季節に応じて、太陽光を取り込む量を制御し快適な温熱環境を提供した。



■2階北インナーバルコニーで夕涼み

星空も楽しめる最高のロケーションで、家族でゆったりと神明の花火や夜景を味わえる。



■階段中程の踏面を広げた踊場空間

単なる通路だった階段は、2方向を壁に囲まれた落ち着く空間となった。踊り場とキッチンを遮る壁を取り払い手すりすることで、1階と2階を緩やかに繋ぎ、互いの気配を伝えるとともに、階段上の高窓からの採光がキッチン奥に届く効果を狙っている。階段下の空間には敢えて扉は付けていない。施主様のお気に召すまま使っていただきたい。

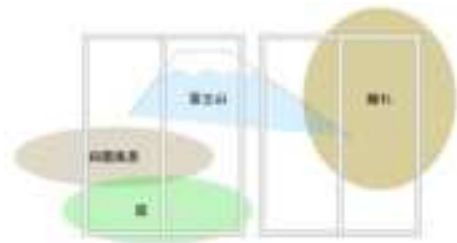


中村 優希
NAKAMURA Yuki

MARIAGE

施主である 60 代前半のご夫婦の要望は 2 つ、老後の生活を自立して行えること、そして娘夫婦と孫との関係を大切にすること。私はこの新築計画は余生を楽しむためのものだとして理解し、計画地と新築、周りの景色を溶け込ませ、全てを雑多に取り込むことによって、お客さんの意思を表現する必要があると直感した。

【母屋の LDK の窓からの眺めの図式化】



富士山や田園風景などの原風景と同時に、離れや庭などの新設したものと映り込む。これによってこの場所に新築する意味に答えた。



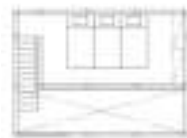
敷地の前面には田園風景とぶどう畑が広がる。それらに向かって母屋と離れを配置した。



母屋 1 階平面図(1/200)



離れ 1 階平面図(1/200)



離れ 2 階平面図(1/200)



母屋 断面図(1/200)



離れ 南面図(1/200)

住所: 韮崎市穂坂町三ツ澤
敷地面積: 437.2 m²

母屋: 建築面積: 79.5 m²
1階床面積: 66.2 m²
延べ面積: 66.2 m²

離れ: 建築面積: 28.9 m²
1階床面積: 28.9 m²
2階床面積: 15.7 m²
延べ床面積: 44.6 m²



母屋と離れは 1.2m の高低差がある。各棟のポーチを階段で繋げるにより動きが生まれる。離れは普段は夫婦が書斎として使用し、娘夫婦の訪問時には客間として開放することを想定した。

シナ合板を基調とした内装。
間仕切り壁は設けず開放的な空間とした。



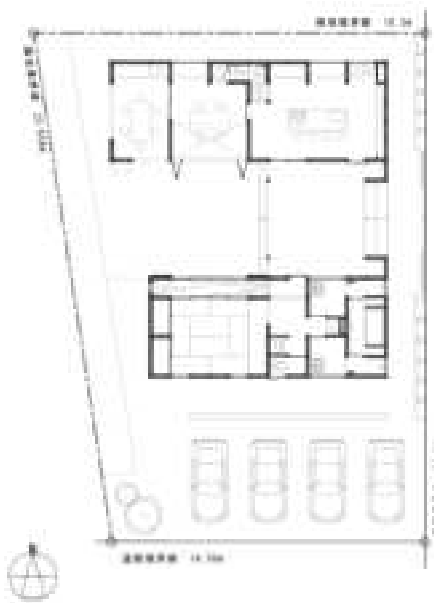
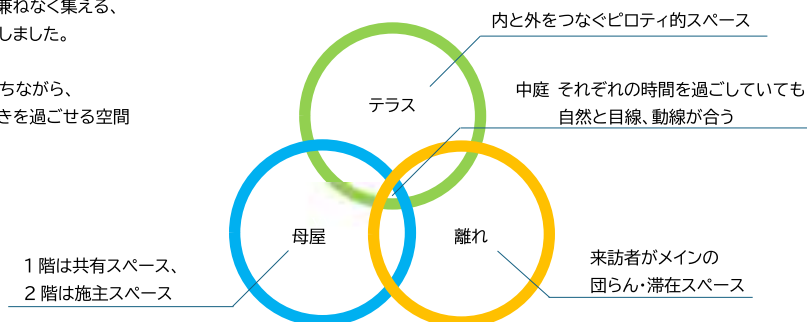
保坂 彩羽
HOSAKA Iroha

清閑の間

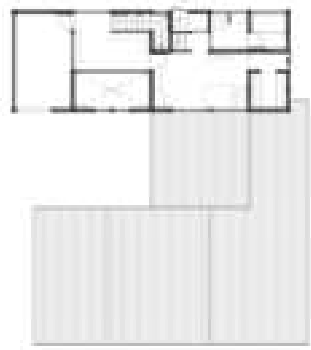
一人で何もしないひととき、何かを誰かとともにするひととき、それぞれの”ひととき”を過ごせる空間づくりを目指した。大きな吹き抜けは2階にいても人の気配を感じることができ、大きな開口やテラス、縁側が中庭を通して内外をつないでいる。上下左右に広がっている空間だからこそ普段の生活から離れ自由に過ごす、気兼ねなく集える場所となっている。

家族でなくても気兼ねなく集える、みんなの家を目指しました。

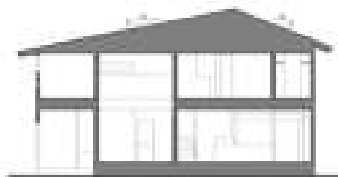
程よい距離感を保ちながら、それぞれのひとときを過ごせる空間



母屋 1階平面図(1/250)



2階平面図(1/250)



断面図(1/250)

住所:
山梨県西八幡郡
市川三郷町大塚

敷地面積: 387.55 m²
建築面積: 137.46 m²
延べ面積: 146.56 m²



■大きな2つの切妻屋根
2階部分と1階部分の屋根の形をそろえて
落ち着きとまとまり感をもたせた



■玄関を設けない
2階建てと平屋をつなぐテラスが玄関の役割をしている。中庭に抜ける視線と余裕のあるスペースとすることで、開放的に人を呼び込めるようにした。



■多方向から集まれる中庭
テラス・2階建て・平屋の真ん中にある中庭は自然と集う場所となっている。縁側や土間でくつろぐ姿に自然と目線や動線が集まる。



前川 裕亮

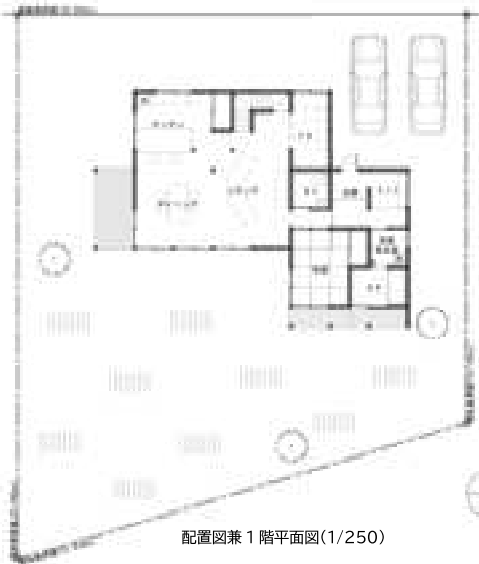
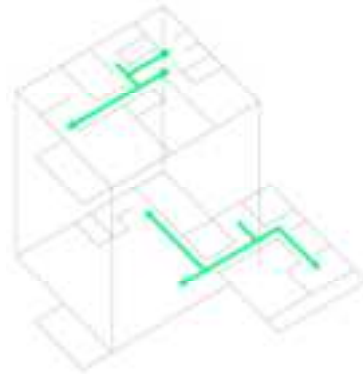
MAEKAWA yusuke

縁の深まる家

家族がどこにいても誰かを感じることができる、程よい距離で住みやすい暮らしの提案である。大空間の中に無駄なく配置した広々とした部屋と、通路を中心に配置したコア型プラン。景色を意識した大きな開口部を設けた部屋など自然を取り入れながら、かつ居心地の良い心豊かになれるような建築を目指した。

家族とのつかず離れずの距離感を大切にしたいという施主の希望から、今回はオープンで団樂を楽しみつつ、プライベート空間でも誰かの気配を感じられるような計画とした。

1 階、2 階ともに空間の中央に家族の動線を設けて、思わず立ち寄ってしまうような団樂スペースや個人スペースを配置した。

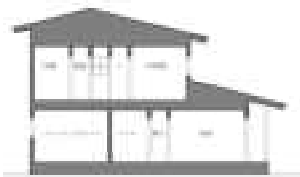


配置図兼 1 階平面図(1/250)



2 階平面図(1/250)

住所:
山梨県甲州市塩山牛久保
敷地面積:467 m²
建築面積:106 m²
延べ面積:177 m²



断面図(1/250)



南立面図(1/250)



■甲府盆地の眺めを暮らしに取り込む

北側の道路に閉じ、南側の甲府盆地に向かって眺望を確保するために、建物を L 字型に配置した。

扇状に広がる庭の向こうに、甲府盆地の景色が広がっていく。

どの窓からでも景色を楽しめる、風景・自然と一体化したような空間を演出した。



■吹き抜けのある階段

1 階と 2 階をつなぐ吹き抜けを囲むように階段を設けた。別々の階にいても気配を感じられるアクセスポイントとなる。



■家の中心にある LDK

玄関から入り廊下を抜けると現れる、広がりのあるダイニング・リビングは家族の団らんスペースとなる。

キッチンからは全体を見渡せ、ダイニングに面した大きな開口から外とのつながりを楽しむことができる。あえて動線の近くに大きなソファを置き、気づいたらみんなが腰かけて団樂が生まれる。